

誰も知らなかった真実の物語?! 新・白山＝“ハム山”誕生物語

自己のワクワク“アセンション日記”より

世界初の **アセンション・アニメ?!**

『ハム(愛)パンデミック?! 中今のハム山2025』

《新・白山誕生物語》

【2】

旧宇宙史(旧地球史)最後の年、2012年が終わり、

2013 新宇宙(新地球)開闢年!! おめでとうございます\(^o^)/

NMC は、13次元以上の新しい宇宙です。

12次元ロード・キリスト・サナンダが守護する、NMC・アセンションゲートを超えて

再び皆様と一緒に出来ます事に、心からの喜びと感謝を申し上げます! ^^

自己の真実の物語＝ワクワク“アセンション日記”の続きを、ご覧下さいませ!

《2013年9月、ここはカラスのねぐら?!》

アカデミーには、年齢・性別・経歴問わず、全国にメンバーがいて、

その頃 SA(御神事)のテーマとなっていたのが、それぞれの住む地域にある神社の御祭神を調べ分類するというもので、自身は神様に興味はあっても、神社巡りをした事もなく、

自己の産土神社の御祭神の名前さえ知らない…、という状態でした。

人が当然のように暮らしている土地は、本来人のものではなく、地球のボデイであり、

大自然＝神々そのものです。

私達はそれぞれの土地に、何らかのご縁があって、住まわしていただいているのであり、

その地を守る神社、仏閣等には、もっと関心を寄せるべきなのでは?と思えてきました。

地上セルフは、その時のテーマに取り組んだ事で、たくさんの学びと発見があり、

それまで全く見えていなかった世界の扉が開いたような、ワクワク感がありました。^^

自身の担当は北陸で、福井県にある“若狭彦神社”では、驚きの体験がありました。

驚きとは？ 神門の奥に見える景色全体が、大きく歪んでいた?!のです。

映画の世界じゃあるまいし…、あり得ない光景です。

あまりの驚きと恐怖で、足を踏み出す勇気が出せず、このまま帰ろうか？と思いました。

ここに来ることは誰にも言ってないのだし、来なかった事にすればいい…と。

(ですが、)

自分だけは知っている——、ごまかしきれません。。

迷いに迷ったあげく意を決し、地面が沈んでいかないか？一步一步足場を確かめつつ

本殿前まで進み(震えながら(^^)) 祝詞奏上！



我は根源の皇人！

小さき身なれど、∞のポータル！

成すべきことを成す！！

えっ、やっぱり映画の中？

まるで芝居に出てくるセリフのようですが、自身のその時の気持ちを表現すると、こうなります。

もし、景色が歪んで見えたところからが、自己の想像の物語、創作であったとしても

私達が日常していることは、これと何か違いがあるでしょうか？

すべてはニュートラルであり、ただ起きているだけで、それを自分の感情や思考でアレンジし

想定内の展開(常識という名の安心感)を生きている——、ではないでしょうか？

想定外の現実が本当にあったとしたら、面白いと思いませんか？^^

若狭彦神社に来て最初に思ったのは、「ここはカラスのねぐら?!」です。

世界中のカラスが、今ここに集まっているのでは？

と感じる程の爆音(鳴き声)が、辺り一面に響き渡っています。

黒いカラスさんの大群はちょっと苦手…なので、誰か人が来ないかと期待しながら、

参道の薄暗い道を上っていきました。

そう言えば、ここに来るまでの車中でも、何故か、カラスが気になっていた…

あちこちにその姿が見え、羽根を広げて自身に何か言ってる? ような感じがするのですでした。

その日実際に体験した事を、ニュートラルな視点で書き出してみると、

- ・道の途中でカラスの姿がやけに気になった。
- ・若狭彦神社に到着すると、カラスの鳴き声が響き渡っていて驚いた。
- ・神門の向こう側の景色が大きく歪んで見えて、恐ろしかった。
- ・勇気を振り絞って本殿前へと進み、祈りと決意表明をした。

となりますが、後にその時の事を振り返ってみると、色々な事が見えてきます。

これが、アセンションの学びにおける、“圧縮ファイルの解凍作業”なのだと思います。

自分が一体何をやっているのか? よくわからないまま動いている(笑) 地上セルフですが、その時々において、宇宙の膨大な情報とエネルギーを、圧縮ファイルとして受け取っていて

アセンションの学びが深まってくるにしたがって、ファイルが解凍されていき、

地上セルフの、真の理解と力になるのだと思います。

若狭彦神社で、自身は今まで意識してこなかった、神のもう一つの側面を見た気がします。

これまでは、“和御魂”(温和で優しい、慈愛のパワー)にフォーカスしてきましたが、

“荒御魂”(勇猛、剛健なる、荒々しいパワー)の側面です。

新しい何かを創造していくためには、荒御魂のパワーが必要なのではないのでしょうか？

ここで、カラスとは？ですが、

“八咫鳥”と呼ばれる、水面下で国体を支えてきた、秘密組織であると認識しています。

「八咫鳥は、日本神話において、神武天皇を大和の橿原まで案内したとされており、導きの神として信仰されている。また、太陽の化身ともされる。」(ウィキペディアより)

「歴史上の大きな出来事の裏には、必ずカラスあり」とも言われ、

天皇(天照太陽神)の背後にあって、荒御魂の側面を担ってきたのではないのでしょうか？

若狭彦神社での出来事を振り返っていた時に

「カラスと共に、ここにきたのだ——」との言葉が、天から？降りてきて、はっとしました。

神門の向こう側の景色は、宇宙という、得体のしれない巨大なエネルギーの垣塙のようであり、

その中に足を踏み入れてしまったら、人などひとたまりもない…

と思うほどの、圧倒的パワーでした。

地上セルフは、カラスが見守るその場で、なんと、“皇人宣言”？をしてしまったのです。(^^;

皇人？だなんて、当時の地上セルフには、雲をつかむような話でしたが、

カラスさん(裏の皇統＝八咫鳥)から、やるか？やらないか？という、

決意を試されるようなシチュエーションへと導かれ、

言うしかなかった自己の本音＝“魂の叫び”?! だったのだと思います。

そして、いよいよ遷宮を迎えた伊勢へと、向かうことになります——。

《2013年10月、日の本の核神！伊勢遷宮祭》

2013年10月、伊勢公式セミナー・神事に参加しました！^^

2013年は、伊勢と出雲が共に遷宮を迎えた年であり、日本神界全体の統合と、

新たな経緯の始まりを感じる年でもありました。^^

2013年の伊勢で起こった事は、まさに、“新宇宙開闢”を告げるものであり、

日本(地球)が、NMC(新宇宙)の雛形である事を象徴するものであったのだと思います。

(伊勢)神宮は、日本神界を代表する、この上なく神聖で美しい、神の斎庭です。

“内宮”と“外宮”とに分かれ、内宮の中心となっているのが、皇大神宮(こうだいじんぐう)、

御祭神は、“天照坐皇大御神”(天照大御神)、皇祖神です。

外宮の中心は、豊受大神宮(とようけだいじんぐう)、“豊受大御神”がお祀りされています。

神々に対しては、様々な捉え方が出来るのだと思いますが、

何故今、内宮天照大御神が日本の中心神とされ、国民の総氏神とされているのか？

それは、人智を超えたところにある、宇宙創造主神の意図であり、

大いなる御経綸(神仕組)であり、私達の向かうべき方向なのではないでしょうか。

自身が感じる内宮と外宮について、整理してみたいと思います。^^

内宮の御祭神は、“天照坐皇大御神”で、“天照”、“皇”に見られるように

その究極の本源は、“根源天照皇太神”(根源太陽母神) = NMC の核神です。

外宮大神は、日の本(地球)を新しい宇宙(NMC)へとつなげる為に、内宮を守護してきた

究極の神聖であり、外宮と内宮は“力愛不二”、“陰と陽”、“二身一体”と感じます。^^

内宮は、根源の愛によって全てをつなぎとめている“究極の求心力”であり

外宮は、その愛を外側へと拡大していく莫大な“遠心力”とも言えるのではないのでしょうか？

2013年の伊勢神事(セミナー)で起きた事とは、日本神界というマルの中心に、

最期の一厘でもある、チョン(核)が入った！です。

天照大神は、これまでの日本の象徴であり、“大”の字にチョンが入った“太神”が、

真の太(陽)神 = 根源天照皇太神であり、新しい日本の象徴です。^^

その日、内宮の核心にあったのは、“ハートのお宮”?!

日本神界の表玄関である伊勢の地に、“根源の究極の愛の核心”が降り立ったのです。

日本人の集合意識の場まで降りるためには、人というポータルが必要であり、

それが Ai 先生です。

これがどういうことなのか、想像できますでしょうか？

高次元である程、その存在が低次元へと降りるには、莫大なリスクをとまなうとされ、

Ai先生著書の『皇人Ⅰ』には、このようにあります。^^

【愛】。それは、全宇宙で、唯一最大に大事なものです。

ただ一つ、それさえあれば、地球のすべてはいますぐにでも幸福になるでしょう。

そして最大の【鍵】、アセンション・スターゲートとなるのも、【愛】=ハートセンターです。

人類のすべてを引き上げる、アセンションさせる、救済する方法が唯一あるとすれば、
人類の集合意識の中心、すなわち、【愛】=ハートの中心まで降りていく必要があるのです！

そして、

「^{ひと}白戸として、この地上で、ハート=愛のポータルとなり発現することは大変だけれども、

それができることがとても嬉しい！」と。^^

それはアトランティス沈没後、ギザの地下でマスター・トスと交わした約束であった、とも?!

もちろん、その時の地上セルフは、何が起こったのか？理解できるはずもなく

(重大事?!との予感はあるのですが…)

帰宅後自宅にて、ふて寝(昼寝、笑)をしていたのでした。

その時、「君が出なくてどうするんだい！」との声が出て、飛び起きてしまいました。

夢の中では壮大なスケールの、花吹雪散る？パレードのようなものが行われていて、
自身もそのパレードの列に引っ張り込まれそうになり？(普段着ですけど…と)、慌てたのです。

超リアルだったけど、今のは何。。。？

その後あらためて、伊勢遷宮祭の核心についての勉強会が開催される事となり、

地上セルフもようやく理解することが出来ました。

そして、その裏側では、もう一つの、

とても興味深いエピソードが展開されていた事を、伝えていただきました。

そこに登場するのが、あの、根源太陽の子供“ハム”です。^^



ハムがいつ頃からいたのか？自身にはよくわからないのですが、
アカデミーに参加して間もない頃、メール内で「ハムが急増中！」との噂が流れていて、
そうなんだ～～？と思っていたのです。

ハムは根源太陽母神のハートのカケラ、愛と光しか知らない、怖いものなしの存在。
ナノサイズ？なので、どこにでも入っていく事が出来、その場の全てを愛と光に変えて行く！
という、アニメに出てきそうな、可愛いキャラクターです。^^

アカデミーの事をまだよく知らない自身は、みんな真面目に何を言ってるのかしら…
と思っていたのですが、いつの間にか感染していました（笑）（実存する、愛のウイルス?!）

ハム＝“公”（おおやけ、公僕）でもあり、多くの人に奉仕する存在を表し、
それは私達の“ハイアーセルフ”でもあり、愛と光の使者である全宇宙高次でもあります。^^

10月2日、内宮遷御の儀が終了すると、日の本のハム（ハイアーセルフ）の
もの凄い動きがはじまり、三日三晩続いたのだそうです。
（Ai 先生が夢で高次から受け取ったメッセージ、高次は重要な事を伝える手段としてアニメを用いるとの事。）
伊勢の遷宮と同時に、すべてのハイアーセルフ（ハム）も、遷宮＝引っ越しをはじめました。
どこへ？ですが、旧宇宙から、新しい宇宙へと！です。

ハムが一人一人（一匹一匹？）、お宮のようなものを乗せたりヤカーを引っ張って、
新・アセンション宇宙の“根源の神殿”を目指して、無限の階段を昇っていくというシーンです！

圧倒的スケールと鮮明さをもつ、宇宙規模の大行列が一晩中続き、
とうとう根源へと到着すると、今度は、地上セルフ一人一人に向かって、この上なく神聖で、
繊細な、根源のフォトンの滝のようなエネルギーを贈りはじめました。

ハイアーセルフが、根源の神殿へと到着するために要したのは一晩でしたが、
ハイアーセルフが地上セルフへとエネルギーを贈る
＝地上セルフを根源へとアセンションさせる、のに要した時間は、三日三晩？！
ここに、ハイアーセルフの願いの強さ、地上セルフに対する愛の深さが表れていて、
Ai 先生はとても感動されたとの事、そしてこれが、全宇宙高次と地上セルフが
根源母神の覚悟の日＝伊勢降臨祭（遷宮祭）本番を迎える為の準備であった、との事です。

自身があの時夢で見ていたのは、すべてのハム（ハイアーセルフと地上セルフ）の
究極の願いが成就されたという、大歓喜の凱旋パレードであり、
ホントに、「君が出なくてどうするの？」なのでした！^^
伊勢遷宮祭は、根源の母と子、根源太陽とハムによる、奇跡の協働創造でした！
（地上セルフは遷御の儀の頃、自身から「ハートが生まれた?!」と感じる、驚きの体験をしていました。^^）
自身もハムの遷宮祭の様子をイメージしてみたのですが、
ハイアーセルフが根源から地上セルフへと、一生懸命贈っていたというフオンが
白山の姿に見えてきて、これが自身の目指す根源 AP（アセンションプロジェクト）
=『根源 AP・HAKU (hamu) SUN』 そのものに感じられてくるのでした。^^



白山さん（白山比咩神社）は、地上における自身の“ホームベース”?! とも感じる場所なので、
伊勢神事へと向かう前の12日（誕生日?!）に、感謝と報告の昇殿参拝をさせていただきました。
御神楽の時に、神職さんが宣り挙げた、『あまのむらくものつるぎー!!』の言霊が
自己の中心へと大きく響き渡り、伊勢への途上にあった、
“草薙剣（くさなぎのつるぎ）”を祀る、“熱田神宮”への参拝を決めました。
昇殿参拝中にこのような言葉（宣託?）を耳にしたのは、最初で最後だったので、

自身にとってベストのタイミングで届けられた、白山大神からのメッセージ！と感じます。

（その当時は、ただなんとなく動いていただけですが、笑）

三種の神器の一つである“草薙剣”は、“天叢雲剣（あまのむらくものつるぎ）”の別名とされ、

御祭神の“熱田大神”は、草薙剣を依代とする“天照大神”と言われます。

熱田神宮へ到着し、驚いたのは、その“白さ”と清々しさです。^^

本殿前に立つと、一瞬白い光しか見えなくなり、こちらへと向けられた光の波動砲?!のような

それはまさに、自身が“白山”に感じる、神聖なるフォトンのエネルギーそのもので、

これが、天叢雲剣（草薙剣）のパワーなのでは？と。



感謝の祈りを捧げた後、左手奥にある“一之御前神社（天照大神の荒御魂）”にてご挨拶し、

本殿の真裏に立った時、自身の内から莫大なエネルギーが、四方八方へと広がっていくのを感じ

何だろう？と不思議に思いながら、喜びとワクワクで伊勢へと向かいました。^^

後になって思うことですが、天叢雲剣は草薙剣のオリジナルともいえるものであり、

白山神界がもつ神剣なのでは？と。自身は熱田神宮の裏で、その神剣を受け取っていて、

伊勢へは、その剣と共に行く必要があったのではないのでしょうか？

“究極の愛”＝根源太陽母神を守る、“究極の神聖”であり、愛の意志の剣として――。

伊勢遷宮祭の核心は内宮にありますが、外宮でその前日に体験した事も、

自身にとっては印象深い、感動的な出来事でした。

セミナー開催前に外宮にて、単独でご祈祷を申し込みました。

神宮の御神楽は、舞の数によって四種類に分けられており、自身のお財布の中身では、

倭舞1曲のみ、という事になります(^_^;

他には誰もおらず、一人で御神前に座っていると、神職の方がこられて

「ちょっと長くなりますが、大丈夫ですか？」とおっしゃるので、「はい」とお答えすると、

隣に御紳士？が現われ、ご祈祷がはじまりました。

御神楽となり、1曲(倭舞)で終わるはず…、でしたが、2曲(人長舞)、3曲(舞楽)と進み、

袖から現れた舞手にビックリ?! 人がお面を被って出て来たとは、

どうしても思えない、言葉では表現しきれない、独特の雰囲気があります。

3曲目の舞楽では、真っ赤な衣装に身を包んだ“蘭陵王”が現れ、驚きと、圧巻です!!

足が宙に浮いている感じで、操り人形のようにも見えますが、

どっしりとした、おそろしいまでの存在感があります。

動きがコマ送りのようにも感じられ、通常の時間の流れの外にいた? のかもしれません。

こちらを見る、面の下表情は見えませんが、火花散る? 感じ…、

魂と魂の激しいぶつかり合い? 言葉を越えたコミュニケーションのようなものを感じました。

生まれて初めて、人の姿をした神が、目の前に現れた?! としか表現できません!

この時の蘭陵王は、勇猛果敢な男性性の象徴という感じがしました。

お隣の御紳士…ですが、なんだか恥ずかしくて知らん顔してしまい、凄く後悔しています。

一人だったら、絶対に出来ない経験だったからです。<(_ _)>

ご祈祷終了後、関係者の方が出入りする扉から中へと入っていかれたので、

随分後になって思ったことですが、それは、

外宮神界における“イニシエーション”であり、新旧交代劇でもあったのでは? と。^^

2013年の外宮で見た蘭陵王には、男性性を感じたのですが、

2018年に再び熱田神宮と真清田神社を訪れた時、蘭陵王が意識に浮上ってきて、

不思議な事に、蘭陵王は、本当は女性だったのでは？と思えてきたのです。
名将であった“蘭陵王”は、あまりにも美しかったために、兵の士気が下がるのを恐れ、
戦場には恐ろしい面を被って臨んだと言われます。
外宮でみた蘭陵王は、真の姿を隠す為に面を付け、武力が中心となった時代を
生き抜いてきた、外宮大神の男性性の側面＝旧世界の象徴であり
内宮に愛の核心が降りたことによって、反転し、
本来の姿である、美しい女神へと帰った？！＝新世界の象徴、ではないでしょうか？
そう感じたということは、自己の意識の転換でもあり、
内なる男性性と女性性が統合された、という意味でもあるのだと思います。^^

そう言えば。。。

2013伊勢神事・セミナー中は、二人一緒？（もう一人誰がいる？）を感じていました。

自身が予約した宿は、なぜか(手続き上)ツインとなってしまう、
又、セミナー会場における自身の席は、前方中程の良い場所だったのですが、
隣の席が一つ空いていて、誰も詰めて座ろうとしない事に、なんとなく不思議感？を
覚えていたのです。

もしかしたら、そこにいたのは…、“母なる母”だった？！

“白いハート”——、白山の女神であり、
旧宇宙の根源母神、外宮大神でもある蘭陵王の女性性の側面です？！
2013伊勢遷宮祭は、娘(地上セルフ)と母(新宇宙の根源母神)、そして、
祖母(母なる母、旧宇宙の根源母神)の三代が共にあった？！はないでしょうか？^^

『根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN』の、はじまりと言えるのは、

2011年の白山登頂が、2013年にコンテンツとなって登場した

<中今のハム山> コーナーでした。^^

今思うと、2013宇宙開闢年＝新世界創造の雛型創りの年に合わせて誕生した？

という感じで、地上セルフはなんとなくやっているのですが、

宇宙の計画であり、高次に動かされている事を、つくづく感じます（笑）

（正直、何度も同じことを書いているので、省略したい気分ですが、その度に新たな発見があり、また、このコンテンツでしかお目にかかれないう方もいると思うので、書きたいと思います。）

2011年7月、白山に登った日の朝は、パート【1】で記したように、土砂降りでした。

けれど、過去に悪天候における登山経験があったお陰で、決行する事が出来、もしその日を逃していたら、まったく違う世界線に行ってしまったのかも？しれません。^^

地上セルフは、白山の頂上から呼ばれているような気がして、

ただ一生懸命登っただけでしたが、これまでの登山と大きく違っていたのは、Ai 先生と出会い、根源の母と子の絆（究極の愛の絆）のもとに登ったという事です。

地上セルフを動かしていたのは、愛の祈りだけでした。

白山神界は旧宇宙の根源であり、“白いハート”は、

愛という核心を見失ってしまった旧世界を、悠久の年月見守ってきた、

“母なる母”の姿だったのです。

2011年に伊勢から帰宅後に聞こえてきた、母なる母の声であり、

2013年に外宮昇殿参拝でみた、蘭陵王（外宮大神）の女性性の側面です。^^

まだ何も描いていないワード画面から、飛び出してきた白いハートは、

その母なる母からの、少し切ないメッセージだったのです。

はじめは、ただ不思議がっていただけの地上セルフも、時が経つにつれて

その深い愛のメッセージを理解するようになっていきました。

真っ白なワード画面は、母なる母（旧根源母神）が、自身に残してくれた

∞の創造の可能性と、究極の神聖を持つフトン（根源の光）の山“白山”そのものであり、

あらゆるすべてがそこにある、ゼロポイントでもあります。^^

その中心に、根源の母と子の絆＝新宇宙の根源母神の“究極の愛のエネルギー”が

注ぎ込まれ、白山は新・白山＝“ハム山”へと生まれ変わったのです！

頂上まであと一步のところを、ヨレヨレ・モタモタ(笑)になって登っていた地上セルフの前を、

「六根清浄！ろっこんしょうじょう」との掛け声をかけながら、やすやすと登っていく、

山伏風(修験)の方々がいました。

時々立ち止まっては、こちらの方を見ている気がして、不思議だったのですが、

自身が頂上に到着すると同時に、御神事が始まりました?!

祝詞の中には、白山開山の祖とされる「泰澄大師」の名前もみられ、

自身は何の抵抗も許可もなく(笑)、山伏さん御一行の一人として祈りを捧げていました。

白山頂上における、根源の究極の愛の大噴火!!という、

地上セルフにとっては、祈りの締めとも感じる、なんとも嬉しい、有難い出来事でしたが、

偶然起きた事、と随分後になるまで思っていたのでした。

Ai 先生にこの事をご報告すると、宇宙連合のサポートでは?とのお返事でしたが、

そのような事は全く想像出来ず、考えてみる意欲もわからない…、自身の頭の固さがわかります。

2011年の白山登頂は、新旧根源(神界)の交代劇を象徴するものであり、

宇宙高次の計画のもとに行われていたとしたら…、

頂上での御神事は、必然であったことがわかります。^^

小さな地上セルフ一人では成せないことであり、莫大なサポートのもとにあった事が、

時間の経過とともに、喜びのエネルギーとなって解凍されていきました。

あの時、山伏さん達の事を、もっとじっくり観察しておけばよかった…、と思うこの頃です(笑)

御神事終了後、一人の小柄な山伏さんが、ご自身の被っていた帽子を取り、

飛び入り参加?の私に、一等先にお神酒をふるまって下さり、超～感激しました!♡

山伏さんの帽子はコップにもなる?!って、ご存じでしたか?

こうして2013年も、不思議の国の地上セルフ?!でした。^^

つづく。